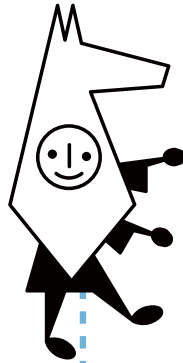


# 十和田市立第一中学校



主体的

対話的で

深い学び

学びのデザイン

単元カリキュラム

探究プロセス

未来志向の学び

社会や世界との接  
点をもって学ぶ

キャリア教育

ふるさと学習

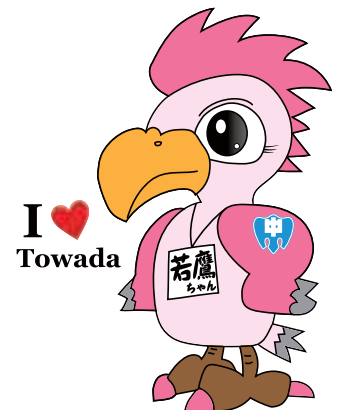
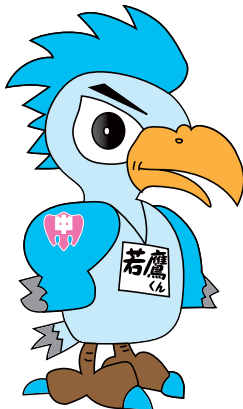
教科等横断的な  
学び

ダイナミックな学習を展開する  
総合的な学習の時間

SDGs/ESD

カリキュラム・マネジメント

新しい時代を主体的に切り拓く  
「資質・能力」



# 十和田一中 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

授業が変われば 生徒が変わる  
教師が変わる 学校が変わる

教師も生徒も **わくわくする**  
授業づくり



カリマネ部(研修+教務)が推進役

研究主題  
身に付けさせたい学びの力が見える授業デザインのあり方  
～「学習スキル」を明確にした活用・探究型学習を通して～

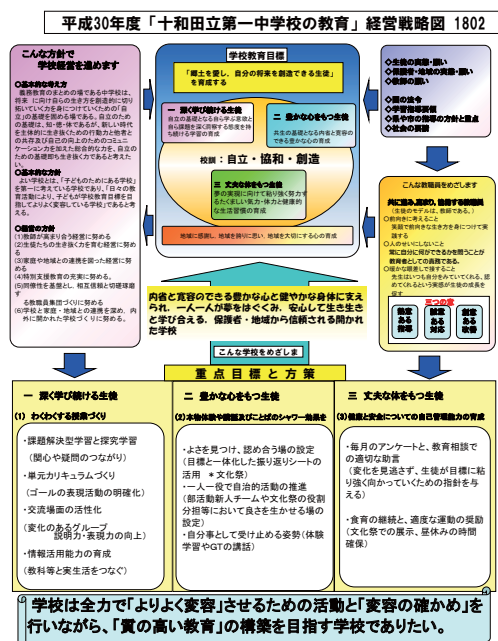


三つのアクションプラン

「学習スキル」を明確にし、 学びを深める授業作り	「総合的な学習の時間」を 核とした教科横断的な カリキュラム作り	自ら学び、共に考え、 社会とつなぐための 土台・環境作り
<ol style="list-style-type: none"> <li>「対話的な学び」「深い学び」の14の学習スキルから、単元を通して身に付けさせたい<b>スキルを焦点化</b>し、年間指導計画を作成</li> <li>学びを深めるために「<b>わくわくする</b>」学習課題を工夫</li> <li>ユニバーサルデザイン、ICT機器による<b>可視化</b>がわかりやすく</li> <li><b>振り返りシート</b>の活用と継続で次につなげ、見通しをもたせる</li> <li>生徒の学びを見取り、自己評価・相互評価による<b>目指す授業の段階把握</b></li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li><b>総合の単元学習計画</b>を軸にして、各教科や領域の関連を考え、年間の計画を作成</li> <li>基礎的・汎用的な学習となる思考・判断・表現力向上を目指し、「<b>思考ツール</b>」の技法を習得・活用</li> <li>資料から気付いたことを調査・分析し、<b>体験学習</b>を必然的に位置づける柔軟な構成</li> <li><b>地域課題解決</b>のための方策をキャリア教育の視点から外部講師に学ぶ機会</li> <li>より良く生きるために<b>自分のストーリー</b>をイメージさせる効果的な仕掛け</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒と共に考えるための技法を教師が身に付ける<b>ワークショップ型研修</b>を、継続かつ系統的に実施(総合を共に考え作ることで共有)</li> <li>表現力を付けるために、スピーチや日記、感想、集会後の記録など日常の<b>言語活動の質</b>を改善・向上</li> <li>「<b>つなげタイム</b>」を活用して学習や生活を振り返り、見通しのある家庭学習の充実</li> <li>国語力を高めるために<b>本や新聞に親しむ機会</b>を増加</li> <li><b>教師の脱書紹介や考え方や生き方紹介</b>のワールドカフェ</li> </ol>

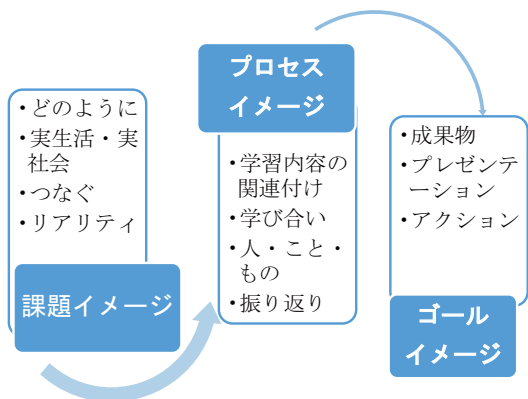
「育てたい姿(ゴール)」から、逆算して授業を組み立てるバックワードデザインによる授業づくり

- ・カリキュラム・マネジメント(グランドデザイン、単元配列表、単元カリキュラム)
- ・社会に開かれた教育課程(地域の教育資源の活用→ひと、こと、もの、情報、ネットワーク)
- ・「総合的な学習の時間」を軸に、各教科でも育てたい「資質・能力」を身に付けさせるための授業デザイン
- ・人生100年時代、第4次産業革命等といわれ、大きく変わるであろう時代を生き抜くことができる資質・能力を身に付けさせたい。



2018 キーワード「つなぐ」「つなげる」「つながる」  
みんな大好き 一中大好き 選とした一中生

☆「見通し」を 教師も生徒も具体的に

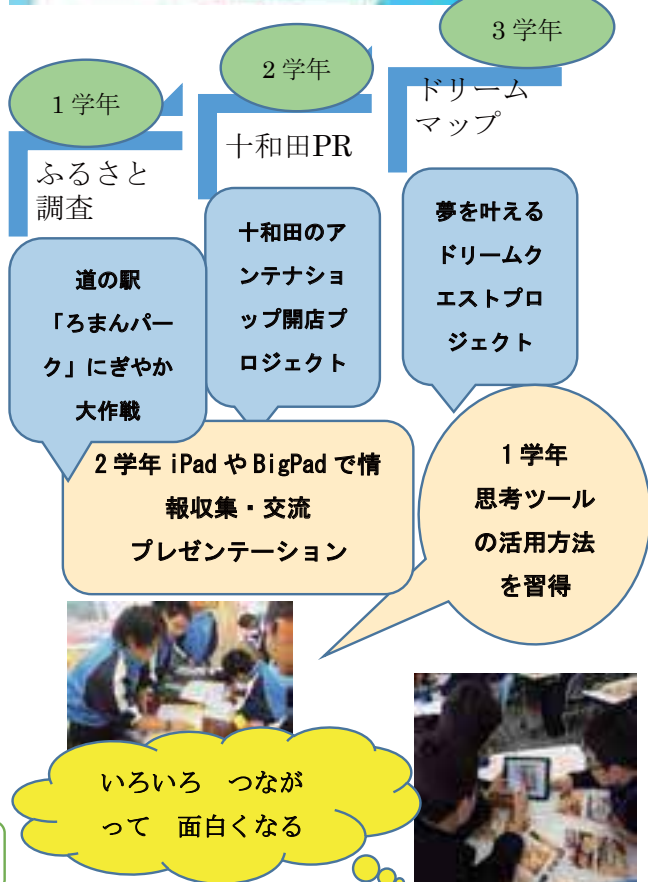


総合を軸に「3年間の積み重ね」

「総合的な学習の時間」で育てようとする資質・能力

学習方法	自分自身	他者や社会との関わり
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を興味し関心する力</li> <li>情報を発見し分類する力</li> <li>わかりやすくまとめる表現する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の行動について意思決定する力</li> <li>自分の生活の改善方法を考える力</li> <li>目標を設定し、課題の解決に向けて行動する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者と協同して課題を解決する力</li> <li>異なる意見や性格の考えを受け入れる態度</li> <li>課題の解決に向けて社会活動に参加する態度</li> </ul>

☆ 学習活動のデザイン



「わくわくする課題」から「パフォーマンス課題」へ

いろいろ つながって 面白くなる

単元名	パフォーマンス課題	本時の学習課題
<b>国語</b> 論点を捉えて「幻の魚は生きていた」～ひめますの里 十和田湖を未来につなごう～	あなたは十和田ビジターセンターの展示スペース「ひめますコーナー」を充実させることになりました。「ひめますの里 十和田湖」を未来につなぐために、湖の環境・湖の生態系・漁協の方の取組の観点から、写真等の資料を取り入れて展示パネルをどのように作ればよいか考えましょう。	「ひめますの里 十和田湖」を未来につなぐために展示パネルのタイトルを考えよう。
<b>社会</b> 私たちの暮らしと経済 生産と労働 「働きやすい職場を築くために」～未来につなぐ一中働き方研究所～	あなたは一中働き方研究所の所員で、「豊かな暮らしを私はこう作る！」というテーマについて研究します。市場経済の仕組みや企業の社会的責任、消費者や労働者の権利、社会保障の仕組みなどの観点を踏まえ、豊かな暮らしとは何か、どのように作っていけばよいかについて、あなたの未来とつなげて考えた研究報告を働き方改革実現推進室に提言しましょう。	2節「豊かな労働の在り方を私はこう考える！」について、労働者と使用者、両方の立場から考えよう。
<b>英語</b> 「観光パンフレットを作ろう」～「Towada旅」をプロデュース 一中未来トラベル～	あなたは十和田の未来の観光業を企画・サポートする「一中未来トラベル」の社員です。アジア圏、英語圏の観光客のニーズをリサーチし、十和田市の観光スポット、食、アクティビティについてコンセプトを考え、インフォメーションセンターで十和田観光英語ガイドをどのようにすればよいか考えましょう。	外国人観光客を相手に観光スポット、食、アクティビティを紹介しよう。

## 1 研究の概要

### (1) 研究目標

「ふるさと学習」を核とした探究型の単元カリキュラムを、教科相互や地域素材とつないでデザインすることにより、生徒がわくわくする授業となり、仲間と共に深く学び続けながら、学びの力を身に付けることができるようになることを実践的に明らかにする。

#### ① 研究仮説

ア 主体的な学び・対話的な学び・深い学びの3つの観点から「学習スキル」を明確にした授業づくりをすれば、自分事として課題に向き合い、身に付けさせたい資質・能力を育成することができるであろう。

イ 習得と活用・探究の学習活動をバランスよく行えるような単元指導計画を工夫し、「わくわくする」学習課題に取り組みせることによって、意欲を高めるとともに、学びを深めることができるであろう。

ウ 「総合的な学習の時間」を核とし、思考ツールを活用して物事の見方・考え方を身に付けさせ、各教科や領域と関連付けることによって、広く社会とつなげながら思考し続ける力が付くようになるであろう。

エ 学習の振り返りを「つなげタイム」の時間に「学習スキル」に基づいて行わせることにより、学習内容の定着具合や身に付けるべき力が明確になり、見通しをもって家庭での学習が進められるであろう。

#### ② 学習スキル

「対話的な学び」「深い学び」の中から、特に「思考して問い続ける」姿勢を喚起し「学びに向かう力、人間性等」を育成したい。また、教育課題の「思考を表現に置き換える」「多様な手段で説明する」相手意識のある授業をつくる。さらに、既得の学習知識及び技能を社会とつなげて「新たなものを創り上げる」単元をデザインする。

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
興味や関心を高める	互いの考えを比較する	思考して問い続ける
見通しを持つ	多様な情報を収集する	知識・技能を習得する
自分と結びつける	思考を表現に置き換える	知識・技能を活用する
粘り強く取り組む	多様な手段で説明する	自分の思いや考えと結び付ける
振り返って次へつなげる	先哲の考え方を手掛かりとする	知識や技能を概念化する
	共に考えを創り上げる	自分の考えを形成する
	協働して課題解決する	新たなものを創り上げる

### (2) 研究の取組

① コミュニケーション能力を育み、自信をもたせる授業づくりをする。

ア 対話や話し合いの中で表現力をつけたり、意見を出し合ったりする場面を設定する。

イ わくわくする学習課題やパフォーマンス課題に対して、協働的に学ぶことによってチャレンジさせ、取組の過程や学び合いの様子から達成感を味わわせる。

② 「総合的な学習の時間」を核とし、教科等横断型のカリキュラムを構成する。

ア 地域社会や世の中とつなぐ視点や体験を取り入れた単元づくりをする。

イ 社会を生き抜く力や学習スキルを明確にした学習活動を工夫する。

③ 活用する力・探究する力を育てる授業をデザインする。

ア 活用や探究をさせる学習課題を工夫し、思考ツールを用いて「見通す・解決する・

伝え合う」学習過程を組み、広げたりまとめたりする力を付けさせる。

④ 主体的に学ぶ力を付けさせるために振り返りを大切にして見通しをもたせる。

ア 「つなげタイム」で1日を振り返らせ、学ぶ目的を意識付け、自己を客観的に見つめて目標行動を決めさせ、自分に合った学習方法を見つけさせる。

イ 振り返りを単位時間や単元の最後に位置づけ、学習プロセスを確かめさせる。

(3) 研究経過

① 1年目 (平成29年度)

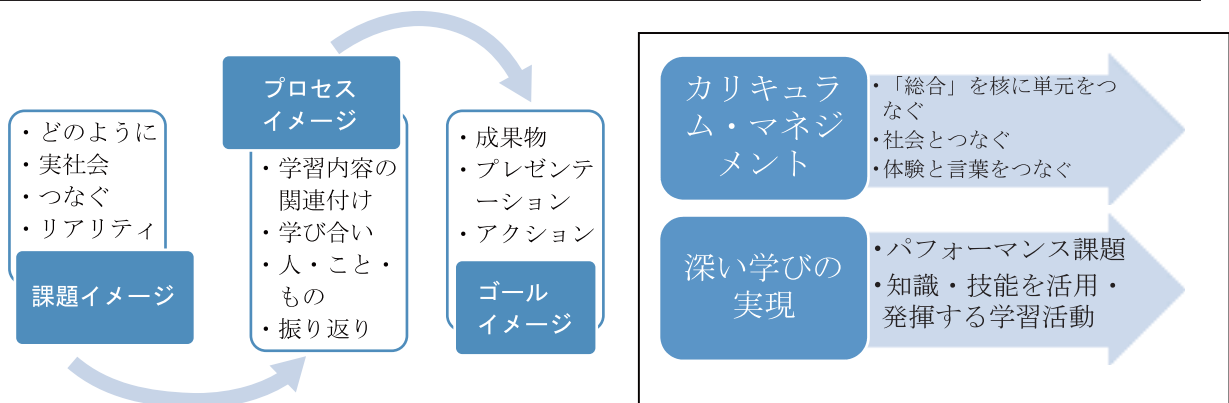
カリキュラム・マネジメントの研修		わくわくする課題	学習スキル
ア ふるさと学習をキャリア教育の軸に ○郷土愛を軸に据え、地域課題を解決する学習 ○地域の「ひと・こと・もの」を積極的に活用 ○学びを人生や社会とつなぎ生かそうとする力を育成	イ 教科等横断型の「総合的な学習の時間」 ○教科等で習得した知識・技能を活用・発揮させる場の設定 ○学び合いで思考の深まり、広がりを実感 ○思考ツールやICTの効果的な活用	ア 社会の変化に対応する能力の育成 ○仮想の場面設定で社会と関連付ける課題 イ 課題を自分事とし、探究する価値づけ ○自分の考えをもち、新たな気づきや発見を促す	ア「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の学習スキルの意味を理解し、実践を繰り返す イ 振り返って次に生かす

◎学力向上フォーラム・Web 動画授業での「総合的な学習の時間」の授業公開

◎公開授業発表 「総合的な学習の時間」1年・2年、「保健体育」3年

② 2年目 (平成30年度)

教科横断型の単元カリキュラムづくり	「総合的な学習の時間」を未来創造型に	わくわくする課題からパフォーマンス課題へ	振り返って次につなげる
○教育活動をつなぐグランドデザインを描くワークショップ型研修 ○総合を核とした単元配列表を作成	○ふるさと学習の学びを振り返り、新たな課題につなげる ○未来の自分を思い描き「ドリームマップ」を作成する講座	○単元を貫くパフォーマンス課題の設定 ○社会とつなぐリアルな状況の創出 ○各教科の学びを活用・発揮する表現活動	○「つなげタイム」で学習スキルを振り返る ○教材や単元を振り返り、身に付いた力や課題を明確にする



◎学力向上フォーラムでの実践発表

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

◎公開授業発表 「国語」1年、「英語」2年、「社会」3年

◎講演会 「深い学び・探究的な学びを実現する子どもの姿

～探究プロセスの充実が子どもと社会をつなぐ～

國學院大学人間開発学部初等教育学科 教授 田村 学 氏